学校番号	３０１８

令和８年度　総合造形科

教科	総合造形	科目	彫塑・立体	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書							
副教材等							

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

授業では刃物など取り扱いに注意を要する道具を使用します。説明をよく聞いて安全に作業ができるようにしてください。
各課題では何を目標とし、どういう力を養ってほしいのか、評価のポイントはどこなのかを伝えていきますので理解して授業に取り組んでください。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
粘土、木といった素材の特性を理解し、量感、空間を意識した構成を考えながら、創意工夫した表現ができる力を身に付ける。
【思考力、判断力、表現力等】
量と空間の変化やバランスを考え、素材の特性を創意工夫しながら意図に応じて表現する。
【学びに向かう力、人間性等】
造形の立体分野に関する基礎基本を積極的・主体的に身に付け、創造活動に生かすような態度を育てる。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	●素材の特性や道具の扱い方を理解し表現することができる。 ●量感、空間における構成を意識し意図に応じて表現できる。	●造形の立体的表現のよさや美しさ、美術の働きを考え、主題を生成し創造的に発想構想を練り、価値意識をもって見方や感じ方を深めている。 ・上記を意識し3次元的に観察、思考しながら作品に表現しようとしている。	●造形の立体分野に関する基礎基本を積極的・主体的に身に付け、創造活動に生かそうとしている。 ●自ら進んで美術への理解を深めようとしている。 ・ワークシートへの取り組み ＊各作品での振り返りシート、準備シート ＊美術史ワークシート
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1	塑造・石膏取り	●りんごの塑造 ・スケッチ ・水粘土による制作 モチーフを観察し水粘土で表現する。 ●石膏による型取り ・雌型、雄型ともに石膏で型取りを行う。	a:素材や道具の扱いを理解し制作している。 b:モチーフを立体として捉え、表現している。 c: 主体的に造形の立体分野への興味や関心を深め、技術の習得や表現へ生かそうとしている。	作品	作品 スケッチ	・ワークシート ・授業観察
	石膏像模刻	●メディチ石膏像の模刻 ・スケッチ ・水粘土による本制作 石膏像を観察し、水粘土で粗付けまで模刻する。	a:粘土の特性を生かし、適切に道具を使用して制作している。 b:対象を3次元で捉えて人体の構造を把握し、表現している。 c: 主体的に造形の立体分野への興味や関心を深め、表現へ生かそうとしている。	作品	作品 スケッチ	・ワークシート ・授業観察
2	石膏像模刻	●メディチ石膏像の模刻 ・水粘土による本制作 石膏像を観察し、水粘土で完成まで模刻する。	a:粘土の特性を生かし、適切に道具を使用して制作している。 b:対象を3次元で捉えて人体の構造を把握し、表現している。 c: 主体的に造形の立体分野への興味や関心を深め、表現へ生かそうとしている。	作品	作品 レポート	・ワークシート ・授業観察
	木彫	●木彫での抽象形態作品の制作 ・構想スケッチ ・油粘土によるマケット制作 ・木材のカービング(粗削り)	a:木材の特性を生かし、適切に道具を使用して制作している。 b:抽象化したテーマを3次元で捉えて量感を把握し、表現している。 c: 主体的に造形の立体分野への興味や関心を深め、表現へ生かそうとしている。	作品	作品 構想レポート	・ワークシート ・授業観察
3	木彫	●木彫での抽象形態作品の制作 ・木材のカービングを紙やすり、ワックスで仕上げ	a:木材の特性を生かし、適切に道具を使用して制作している。 b:抽象化したテーマを3次元で捉えて量感を把握し、質感を表現している。 c: 主体的に造形の立体分野への興味や関心を深め、表現へ生かそうとしている。	作品	作品 レポート	・ワークシート ・授業観察

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度